

令和4年度地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書

(市町村分) 個票

自治体名

京丹後市

(都道府県: 京都府)

事業メニュー	結婚新生活支援事業				
区分	結婚新生活支援				
関連事業メニュー	3.1 新規に婚姻した世帯に対する住宅取得費用又は住宅賃借費用に係る支援及び新規に婚姻した世帯に対する引越費用に係る支援(一般コース)				
個別事業名	京丹後市結婚新生活支援事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	新規		
実施期間	交付決定日 ~	令和5年3月31日	事業開始年度	年度	
対象経費支出予定額 ※(注)1	900,000			円	
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	本市の人口や婚姻届出数は平成17年度はそれぞれ約65,000人と891件であったが、令和元年度末には約54,000人と782件と減少しており、特に人口に至っては、増減率が-1.0%以上となっており全国の人口増減率-0.22%を大幅に上回っている。こうした依然として少子化が進行している中で、地域や企業など、社会全体として、結婚、子育て、仕事をしやすい環境整備を行うことが求められており、本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標③「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」ため、「子育て環境日本一のまち」の構築とワークライフバランスの実現に向けて取り組みを進めている。本事業は、希望者が結婚できる支援体制を整備する取組として位置づけ支援事業を行うもの。				
個別事業の内容	(個別事業の内容) ※(注)3				
	1. 概要				
	【補助対象要件】				
	・所得要件	<input type="checkbox"/>	夫婦の合計所得が400万円未満	<input checked="" type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合 夫婦の合計所得が500万円未満 ※要件緩和分は市単費にて実施	
	・年齢要件	<input type="checkbox"/>	夫婦ともに婚姻日における年齢が39歳以下の世帯	<input checked="" type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合 夫婦の一方の婚姻日における年齢が39歳以下の世帯 ※要件緩和分は市単費にて実施	
	【補助上限額】 ※補助対象費目について、一般コース・連携コースのいずれかで記載すること。				
	一般コース	<input type="checkbox"/>	各費用に係る合計が30万円	<input checked="" type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合 各費用に係る合計が30万円 ただし、府外からの移住世帯は60万円 ※要件緩和分は市単費にて実施	
	都道府県主導型コース	29歳以下の場合	<input type="checkbox"/>	各費用に係る合計が60万円	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合
		39歳以下の場合	<input type="checkbox"/>	各費用に係る合計が30万円	<input type="checkbox"/> 自治体独自基準の場合
	【その他独自要件】				
2. ①申請見込み世帯数		3	世帯		
※都道府県主導型の場合の内訳		共に29歳以下	世帯	左記以外 世帯	
【積算根拠】					
京都府内で今年度の本事業を開始した亀岡市の見込み件数(5件)と对本市の人口比(約6割)を参考に、支給見込み世帯を3件とする。新婚世帯からの申請状況によって、補正予算等で対応を検討する。					
〔 令和3年度見込世帯数 世帯 〕					
②継続補助の見込 対象経費支出予定額			世帯 円		
3. 広報の実施予定					
本市のHP、公式LINE等で広報を行う。					

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4	KPI項目	単位	目標値	現状値
		新婚世帯における当該結婚支援事業利用者数の増加	件	5(令和5年)
参考指標 ※(注)5	項目	単位	直近の実績	
	合計特殊出生率	%	1.73(2008~2012ベイズ推定値)	
	婚姻件数	件	181(R1年度)	
	婚姻率	%	3.3(R1年度)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目	単位	目標値	現状値
	支給世帯実績/支給見込世帯数の割合	%	90	
	結婚新生活支援事業に関するアンケートにおける「本事業の認知度」	%	90	
	結婚新生活支援事業に関するアンケートにおける「地域に応援されていると感じた世帯の割合」	%	90	
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	京都府ホームページで広報を行う。			
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	無			
委託契約の有無 ※優良事例の横展開支援事業又は重点課題事業を実施する場合のみ記載				
上記「事業内容」について、「地方創生推進交付金」の申請の有無	無			

(注)

- 1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。
- 2「自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け」には、これまでの自治体における少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題と、それらを踏まえ、自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付けを記載すること。
- 3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的な内容を記載すること。また、事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること。
- ※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること。
- 4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和4年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。
- 5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。
- 6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中での本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。
- ※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。
- ※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。
- 7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。
- 8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。